



## 3月合同例会のご案内

## 今月の強調テーマ： BF・メネット

合同例会に皆さんで参加しましょう。東京世田谷クラブの皆様と楽しい交わりをともにいたしましょう。卓話はちょっと難しいかもしれませんが、脱原発についてともに考えましょう。

日時：3月22日(金) 18:30~20:30

会場：東京YMCA南コミュニティセンター  
(世田谷区宮坂 3-23-2 TEL3420-5361)

会費：1,000円

担当：C班(石井、神谷、河原崎、木川)

## HAPPY BIRTHDAY

21日 吉田明弘 30日 小原武夫

31日 大野貞次

結婚記念日 2日 小原武夫・詔子

26日 寺門文雄・多恵子

司会 張替 滋夫

開会点鐘 東京世田谷クラブ会長 朝倉 正昭  
ワイズソングと信条 ー 同

ゲストとビジター紹介 世田谷・朝倉正昭会長  
東京西・本川悦子会長

今月の聖書朗読・食前の祈り 松井 直樹  
会食

卓話 「騙されつづけてきた原発の  
ほんとうの怖さ」

小倉志郎氏

ハッピーバースデー・結婚記念日

ニコニコ献金 ー 同

諸報告

閉会点鐘 東京西クラブ 本川 会長

## ー2月第2例会(事務会)ー

日時：2月28日(木)

19:00~21:00

会場：ウエルファーム杉並

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、本川、村野、吉田

<報告事項>

- ①2月のデータを確認した。
- ②2月の月次会計報告を承認した。
- ③次年度国際会長はデンマークの Jakobsen Poul-Henrik Hove さんに決定した。
- ④次期アジア太平洋地域会長は、シンガポールの Lua・Soo Theng さんに決定した。
- ⑤第2回あずさ部評議会は、大雪が予想されたため中止。振替開催は行わない。
- ⑥アジア太平洋地域大会のために、千羽鶴折りを分担して、協力することにした。

<協議事項・例会関係>

- ①3月東京世田谷との合同例会

日時：3月22日(第4金曜)

18:30~20:30

場所：YMCA南センター

日時と場所を再確認し、ブリテン記載のため、会の概要を会長から問い合わせる。当クラブか

ら11人が出席予定。

<協議事項・例会以外>

- ①次年度役員候補が決定した。  
会長・篠原文恵、副会長・大野貞次、書記・神谷幸男、会計・高嶋美知子
- ②次年度のホテル学校支援について、小畑校長・木川担当主事と話し合うため、3月第2例会(又は4月第2例会)への出席を要請する。
- ③2月のWHOで転倒者が出た。けがはなかったが、傷害保険の詳細を把握するため、保険窓口の藤江喜美子さんに、話を聞く機会を持つ。
- ④熊本にしクラブの10周年に会長名で祝辞を送る。
- ⑤次期区役員、クラブ会長研修会に、本川次期ユース事業主査、篠原次期会長が出席する。  
(書記・石井元子)

## 3月以降の行事

- ▲3月23日(土)

東京サンライズクラブ30周年記念例会

出席者：大野、神谷、神谷 M、高嶋

- ▲4月27日(土)

## 卓話者紹介

## 小倉 志郎(おぐら・しろう)さん

1941年(昭和16年)東京生まれ(現在の大田区池上)、太平洋戦争が始まった年。

大学は慶應義塾大学工学部、機械工学科卒、修士課程修了。日本原子力事業(株)(後に東芝に吸収合併)に入社、福島第一原発建設で原子炉系のポンプ・熱交換器などの機械購入技術に携わる。

35年間一貫して原子力発電の見積・設計・建設・試運転・定期検査・運転サービス電力会社社員教育などに携わり2002年定年退職。

福島第一原発事故後、原発の基本的な構造や本質的な危険性についての講演会を精力的に行っている。

川越クラブ20周年記念例会

出席者：本川、吉田

- ▲4月27日(土)

熊本にし・熊本ネクサスクラブ10周年合同記念例会

出席者：神谷、高嶋



楽し気にスピーチ 小原史奈子さん



漱石作品で三四郎と美彌子が出会った通称三四郎池

## ー 2月TOF例会ー

2月例会はゲスト2人、ビジター4人をお迎えして2月21日に開催されました。

TOF例会と言うことで食事は恒例によりおにぎり2つ。しかし差し入れのお惣菜があり「飢餓」を感じるには少々豊か過ぎる食事でした。これもまたワイズリーでよらしい。

卓話は東京たんぼぼ Y サービスクラブの小原史奈子さんに「東日本区国際・交流事業主任になって思う事 “TOF 事業の現状” を中心に」と題してお話をお聞きました。

まずは「自己紹介」。コメントとしてワイズに関わり、東京たんぼぼクラブ設立と共にワイズメンとなり、いろいろな体験、経験を重ねてスキルアップできたこと、達成感の積み重ねが自信につながったこと、クラブ内外に多くの仲間ができたこと、クラブ活動の楽しさを学ぶことが出来たこと等をお話いただきました。

次に「国際・交流事業について」。事業の1つとして「献金」があります。なぜ献金するのか。ワイズメンはいつも「困っている誰かのために」活動しているから。「誰かを助けて喜ばれる事」が回りまわって「自分の幸せ」に繋がることを学んで知っているからでしょう。

次に「2018-2019年度 TOF 新規プロジェクト」の説明。

- ◎ チリ、サンティアゴ：子ども達のソーシャルスキル向上ワークショップ
  - ◎ タイ、チェンマイ：障がいを持つ若者のためのワークショップ
  - ◎ インド、ケララ：女性の地位向上のためのプログラム「ミシン、PC トレーニング」「食料生産向上プロジェクト」
  - ◎ インド、カルナータカ：貧困者支援のため眼科施設設立
  - ◎ 米国、ノースカロライナ：糖尿病予防プログラム
  - ◎ ジンバブエ：若者の地位向上のためのプログラム
  - ◎ カナダ、フィレデリクトン：ホームレス施設支援
- 支援金額合計 146,442 スイスフラン (約 1,600 万円)

関連動画を用意していただきましたが、プロジェクターの不備で見ることができなかったことは残念でした。その代わり、明るいところで我々の顔を見ながらお話しできてよかったとご本人のご感想でした。

(神谷幸男)

出席者：<メンバー>石井、大野、神谷、河原崎、高嶋、鳥越、村野、本川、吉田、<メネット>神谷、<ビジター>田上(熊本むさし)、服部、藤江(東京たんぼぼ)<ゲスト>渡辺泰次、渡辺宣子、<メーキャップ>神崎、木川、篠原

## 漱石ゆかりの文の京 WHO 2月例会報告

2月23日、JR 御茶ノ水駅前に集合したのは、27人。今回のコースは、文京区の漱石が学び教え、住んだ場所、作品に登場する箇所を結びました。

湯島聖堂、旧高等師範跡、江戸時代の古刹、霊雲寺を経て麟祥寺へ。ここには江戸城大奥の実力者春日局の墓があります。『三四郎』の美彌子を通った本郷教会を見て本郷三丁目駅へ。地下鉄で春日へ。『こころ』の先生の散歩道の富坂、一葉の終焉の地、漱石が作家として生きる決意をした「西片の家」跡から、東大構内へ。安田講堂付近で昼食。三四郎池を覗いてから弥生門に抜けました。日本で初めて弥生式土器が発見された場所はこのあたりですが特定されていません。

言問通りを下り、太田道灌、將軍綱吉ゆかりの根津神社へ。建物の多くが重文です。漱石、森鷗外が座り思索にふけたといわれる岩もあります。

裏門を出ると千駄木。漱石が英国留学から帰り、『猫』を書いた猫の家があります。塀の上を歩く猫の彫像がありました。団子坂の鷗外記念館で解散しました。

ワイズ関係は、石井、本川、吉田(東京西)、中澤、藤江(東京たんぼぼ)、樋口(東京グリーン)でした。(吉田明弘)



国立オリンピック記念センターで行われた東日本区次期会長・部役員研修会

## 次期会長・部役員研修会

2018-2019年度の東日本区次期会長・部役員研修会が国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、3月9・10日に行われました。北海道から沖縄までの各役員候補・講師103人が集まり10時から翌日昼過ぎまでの勉強会です。

研修Ⅰは、日本区第38代理理事・森田恵三さんの基調講演「ワイズへの思いーこれまでとこれから 国際ワイズ創立100周年に向かって」。研修Ⅱは森田恵三・宮内友弥・山田敏明・札埜慶一・伊丹一之さんらによるパネル・ディスカッション「会員増強・新しいワイズ像」。研修Ⅲは4グループに分かれ、各事業主任の方針説明による各事業の理解を深める時間。

夕食懇談会では10テーブルに分かれて、ワイズ歴の浅い人、ベテラン、男女を問わず賑やかに交流が繰り広げられ、その熱気は各部毎の「部長を囲んで」でも続きました。

宿舎は東京オリンピック当時、選手たちが泊まった部屋にそれぞれ別れ宿泊。当時と同じ男女別のフロアーに分かれ、共同のトイレ・水のシャワーには驚かされましたが、研修会の心構えとしては当然と納得しベッドに入り就寝。

翌日も早朝ウォーク、日曜礼拝から始まり、研修ⅣはITアドバイザー大久保知宏さんの「IT利用による情報伝達について」。

Facebook、Twitter、LINE等を活用してEMC活動を若者たちにも広げようとのことで、8月ごろまでにまずはHPの最初のページを作成し、以後の運営は各クラブで維持していこうとの提案がありました。ITに弱い者には不安もありますが、内向きになっていると言われるワイズ活動の拡大には効果的と思われます。

研修Ⅴ「部役員の役割、クラブ運営の説明」「メネットについて」、研修Ⅵ「次期会長、部役員グループの分科会」、研修Ⅶ「ワイズクイズ解答、解説」など、13:00ごろ全ての日程を終えました。

解散前に、本号のインタビューゲスト・池田正勝十勝クラブ会長にご挨拶が出来ました。当クラブからは本川悦子次期ユース事業主査と参加。(篠原文恵)

## 他クラブの活動に注目

富士五湖クラブ主催で4月27日(土曜日)開催される「第9回障がい者フライングディスク大会」にお手伝いの募集が来ています。この大会への協力として山梨県障がい者フライングディスク協会との協賛です。

大会の主旨として、この大会を通して障害を持つ方々の日常生活がより一層充実したものになっていけることを願うと共に、競技の普及と振興を図ることを目的に開催されるということです。ぜひ皆さんに見ていただきたいと思います

競技内容は2種目。アキュラシー競技、これは距離を置いたところにある輪にフライングディスクを通す競技です。デスタンス競技、これはフライングディスクを遠くに飛ばす競技で、面白いですよ。(大野貞次)

## YMCA Today

○ホテル学校は3月14日に120人を越えるホテルエの卵たちが卒業式を迎えます。新社会人として巣立つこの時期は寂しくもあり、誇らしくもあります。今後のホテル業界での活躍を期待して見送りたいと思います。そして2019年度がスタート。今期は130人近い新入生が入学予定。新学期が今から楽しみです。

○1月22日、有楽町朝日ホールで「第4回朝日新聞障がい者スポーツシンポジウム」に堀雄二氏(東京YMCA社会体育・保育専門学校校長)が出演しました。スポーツジャーナリストの増田明美さんやタレントの中川翔子さんなどパラリンピックの選手たちと共に、障がい者がスポーツに親しむための課題についてディスカッションしました。2月19日、その特集記事が朝日新聞全国版に掲載されました。

○2月27日いじめ反対運動「ピンクシャツデー」に合わせ、全国YMCAでは様々な取り組みが行われました。東京YMCAでは教職員や子どもたちがピンクの物を身につけ、アピールや寄せ書きをした他、高等学院主催の「弁護士による特別公開授業」には会員や職員も参加し、いじめについての学びを深めました。

(担当主事 木川 拓)

東京YMCAのHPで、WHOの毎月の予告と報告を写真入りで見ることが出来ます。



<http://tokyo.ymca.or.jp/communty/2019/03/20190308.html>

## ☆☆ インタビュー ☆☆ 池田 正勝さんに聴く

\* \* \*

池田正勝さん（十勝クラブ）は、北海道に移住されて48年になります。



—池田さんご夫妻には、1990年の東日本区大会の前日に札幌入りした時、市内を案内していただいたことがありましたね。

「そうでしたね」

—初対面なのにフレンドリーなのに、びっくりしました。もともとのご出身は。

「京都市内にある北野天満宮の近くで生まれ育ちました」

—北海道は、京都とは、ずいぶん違ったでしょう。

「京都は人が造った千年の都、北海道は広大な自然豊か大地、四季がハッキリしているところが私にしては魅力的でした」

—それで、北海道で教師になられたのですか。

「学生時代の恩師（故田中健一教授）との出会い、師の教えで機会均等の教育原理の実践に向けて、少人数の僻地教育に憧れていました。最初は大阪府唯一の僻地2級校河内長野市立滝畑小学校（現在は滝畑ダム）の教師になりました。3年後1971年念願の北海道に渡り、道南の黒松内町立東栄小中学校に赴任、全校で小学生3人、中学生5人、二学期が始まったら親の離農により生徒がゼロになりました。その後、十勝幕別町、網走での学校を経て、十勝に戻り清水町の廃校跡(YMCAとの繋がりが有った)に住み新設された帯広養護学校に通勤しました。

家族は幕別時代に隣の中学校

で体育教師をしていた十勝生まれの活発な人を紹介され、結婚。長女は幕別町で生まれ、長男、次男は網走っ子です。小規模校での教師生活は充実していましたが、網走養護学校が開校と聞き、機会均等教育の実践が障がい児教育にあるのではと、決意を新たにしました」

—教師になるには、いろいろ免許が必要なんでしょう。

「そうですね。免許は大阪で中学校の社会と職業、高校の商業、小学校、幼稚園、北海道に来てから養護学校を取得しました」

—子どもの頃は。

「弟1人、妹2人の長男でしたが、おとなしく目立たなく、弟には相撲でいつも負けていました」

—高校時代は。

「祖父は宮大工、父は工務店をやっていましたが、父の代になって仕事に行き詰まり、私は和服の刺繍屋に住み込み、定時制にも通学。何よりも日曜日に、朝夕教会に通えたことが、安らぎであり、その後の人生のベースになったと思っています」

—YMCAやワイズとは。

「反物を自転車に積んで職人さん宅へ届けに行く途中、YMCAの看板を目にしていました。幕別町に住んでいた時に、ユネスコの仕事をしていた森末良二さん(故人)から十勝クラブの設立を準備していると聞きました。さらに網走養護学校ではYMCAチミケップ湖国際キャンプ場で生徒たちと過ごし、よりYMCAが身近なものになりました」

—ワイズには、誰に何と言われて。

「幕別にいた1973年頃から、森末さんから一緒に活動しませんか？と誘われていました」

—土地っ子でなくても声がかかるのですか。

「当時、ユニークな人たちの集まりだと記憶しています。よそ者意識は全くありませんでした」

—十勝クラブは、農村の後継者づ

くり、花嫁募集などをやりましたね。私も、東京・新宿伊勢丹前でチラシを配った記憶があります。

「30数組が結ばれたのは全国のワイズの協力があったからこそだと思います」

—北海道でのYMCAやワイズの発展の余地は、どう考えられますか。

「YMCAやワイズメンズクラブの知名度も低いです。今はまさに試練の時でしょうか。自分の足元、己自身をしっかり見つめる時と考えます。」

—7月から山田敏明さんが、区理事になられますね。

「十勝から2人目の理事として送り出すことは、北海道のYMCAやワイズの活性化に直結し、多くの出会いがあります。山田新理事を支えることはメンバーにも刺激があり、恵みの時でもあります。共に喜び、成長したいと願っています」

—今のお仕事は。

「ここ恵みの里での実践です。YMCA キャンプ場の環境整備と自然動物との共存等、リハビリを兼ねての理想郷づくりです。ちょっと大げさですが…」

—大変広いお住まいだそうですね。敷地は5畝(東京ドーム1個分)とか。

「敷地は広いですが自宅は小さな平屋です。池を5つ掘りました。『池田五湖』と命名して、家族の名をつけています。どれも湧水です。昔はいたという蛍を育て、夏にはYMCAの『親子ほたるウォッチング』プログラムが人気があります。私の頭の輝きは日中だけ、暗闇の光りの舞は神秘的ですよ」

—春が待ち遠しいですね。

「十勝の冬は、雪は少なく寒さは厳しいですが家は暖か。春にいっせいに草花が芽吹くのは見事と言うほかありません。来年の6月6日には、区大会が十勝で開かれます。是非、お待ちしております」

—期待しています。ありがとうございました。(吉田明弘)

## 旅で出会った人 ⑥

村野絢子

### カナダ西から東に1か月 そのⅡ

次のウイニペッグは古い町、泊まったホテルはフォークスにあり、そこは6,000年前から人々の生活の記録がある土地でネイティブとの交易場だった。大学が数校あり、クルージングを楽しんだ。

東洋英和のブラウン宣教師と再会。先生は、火事で焼けた教会を2つの地域に奉仕する建物を作り、複数の教会が礼拝堂として使うヤング教会で奉仕されている。次に訪れたトロントの空港に30分遅れの到着、ミシサガクラブのアンディーとマヒューが出迎えてくれた。

翌日、アンディーとウィルフの案内で州立図書館にあるオズボンコレクションを訪ねる。絵本の原版書を展示している。日本でも1987年に展示ツアーがあったとのこと、乾千絵さんの「月石人」絵本を差し上げる。ナイアガラの下に人の集まるイートンセンターを見て、靴の博物館「BATA」。ここにはネイティブの履物からハイヒールまで世界中の履物の歴史が展示されている。

ダン総主事と5人のメンバーで会食後、ノースフォークYMCA見学、会館は10年前の建築。チャイルドケアとフィットネスに力を入れ、早朝6時の開館に100人近くが参加し、保育・デイケアの徹底した担当者養成をしている。館内170人、館外100人、学童保育に120人、行政から委託された事業が収入の4割という。

ナイアガラにVIA鉄道日帰りで行く。最後の訪問地モンクトンでは繁と3年振りに面会したデイヴが迎えてくれた。日曜日、デイヴのご両親の記念会があるミラミヒ教会に同行し、彼が寄贈したステンドグラスの贈呈式もあった。

モントリオールで和泉教会の友人の長女の大学卒業祝いの宴に加わり、バンクーバーで1泊し、帰途に就いた。

移動の多い長旅であったが、気取らないカナダの暮らしの豊かさに感動の旅であった。



## 新聞の楽しみ

石井元子

朝起きて、1番にすることは新聞を取りに行くことである。

マンション住まいは、自宅の玄関を出れば外と同じで人目がある。寝間着の上に長いコート（マンション専用）を羽織り、1階の郵便受けに直行する。新聞人口が激減している今日、珍しい朝の習慣となりつつあるが、老人（私）の楽しみである。

その日の予定に合わせて、1面の見出しを横目で見ながら、すぐに外出の支度をする日もあれば、ゆっくりと香り高いコーヒーを飲みながら、紙面をめくる日もある。勿論、テレビは朝からつけっぱなしだが…。

80歳代の私にとって、紙面を通して内容を把握し理解するのが1番楽な方法であり、私流のやり方でもある。

新聞（我家は読売）には、政治経済、国際、社会、文化、スポーツ、暮らし、家庭、番組などなど、

多種多様な分野があるが、私の好きなのは、暮らしと文化欄である。この2つには、テレビでは表現できない新聞独特の良さがある。紙面で人間の複雑な思想や感情を短文で的確、鮮明に表現することができる。

暮らし欄に毎日載る「ぶらざ」は、一般投稿者による短い随筆で、日常生活の中で感じた何気ない人間の営みが、一口エッセイとして上手に綴られている。女性投稿者が圧倒的に多く、大いに共感する。自分が日頃、見過ごしている重箱の隅の様な所に光を当て、随筆の題材にしている。新鮮で新しい世界を覗いた気分になる。

この「ぶらざ」のすぐ横には「人生案内」欄があり、人間の様々な悩みや苦しみを赤裸々に綴り、解決の糸口を求めている。人の持って生まれた性格や生い立ち、置かれた環境などによって、苦悩の度合いは異なるので、解答は難しい。諸先生方の解答も、ありきたりの答えから、突き放す答えなど

など。自分もいつしか真剣に答えの糸口を捜している。だから新聞は面白い。

## 編集後記

日に日に春を感じるこのごろですね。先日春一番が吹き、いよいよ寒さともお別れですね。

お別れと言えど私がかかわっている幼稚園では年長組の子どもたちが卒園の準備をしています。早いですね。入園してきた時は、なきむしで小さな子どもたちが大きくなり堂々と壇上に上がり、お別れの挨拶を練習しているのを見ると何となく…。

また新年度を迎えるため、保育室の改造工事の立ち会いに毎日幼稚園通いをしています。

ところで、今回も準備不足と連絡ミスで大幅に発刊が遅れました。申し訳ありません。寄稿をいただいた皆様に感謝申し上げます。

(T. O)